



送

辞（第32回卒業証書授与式）

厳しい冬の寒さが終わりに近づき、日差しに春の訪れが感じられる季節となりました。この良き日に三年生の皆さんが晴れて卒業を迎えられましたことを、在校生一同、心からお祝い申し上げます。

希望を胸に伊達緑丘高校の門をくぐってから早三年、かけがえのない様々な思い出が走馬燈のように目に浮かんでいることでしょう。そして新たな生活への期待で胸がいっぱいになっていることでしょう。目を閉じると、私たち在校生にも先輩方と共に過ごした数々の思い出がよみがえってきます。

入学したばかりで、緊張している私たちに優しく声をかけてくださった時から、先輩方は常に私たちの模範でした。

学校祭の準備期間には、平日休日を問わず、最高学年という自覚と責任感をもち、練習している姿は、眩しいほど輝いていたことを覚えています。合唱コンクールやクラス演劇の本番では、観る者を圧倒する歌声と演技で私たちを魅了してくれました。その陰にはたくさんの努力や苦労があったことと思います。また、司会者の皆さんも夜遅くまで残り、練習や打合せを重ね、素晴らしい笑顔で会場を盛り上げてくれました。このような皆さんの姿は、本校の校訓でもある「創造」を、形として私たち後輩に示していただいたように思います。

体育大会の本番では、必死になってボールをつなぐ素晴らしいチームワークや、どんな状況でも絶対にあきらめない粘り強さに感動しました。

部活動でも、目標達成に向けて努力をし、何事にも一生懸命取り組んでいる姿は、私たちの憧れでもあり、目標でもあります。また、引退後は毎日遅くまで教室や図書室で必死に勉強されている先輩方の姿がありました。そのひたむきに努力する背中を見て、進路希望を実現することの厳しさと、夢に向かって頑張るという強い決意を感じました。この先、先輩方は進学や就職に、それぞれの道を歩まれるわけですが、前途には素晴らしい未来が開かれているとともに、大きな苦労や困難もあると思います。しかし、これまで積み重ねてこられた知識と経験の上に、自信をもって乗り越えてくれるものと信じています。私たちも常に挑戦する心を忘れず、大きく前進していきたいと思います。

今日まで温かく声をかけてくださり、時に厳しく、私たちを導いていただきました。いろいろな面で私たち後輩を支え、見守ってくださった先輩方。ともに過ごしたこの時間は、何物にも代え難い思い出です。いつまでも心に残っていくと思います。

最後になりますが、私たち在校生は、皆さんから学んだ一生懸命努力することの素晴らしさ、仲間を信じることの大切さを忘れず、本校の素晴らしい伝統を受け継ぎ、より良い学校にしていけることを誓います。より高い志をもって後に続いていけるよう、頑張っていきたいと思います。今まで本当にありがとうございました。卒業生の皆さんのより一層のご活躍とご健康をお祈りし、送辞といたします。